

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **11012400 A**

(43) Date of publication of application: **19 . 01 . 99**

(51) Int. Cl

C08L 23/10

C08K 3/24

C08K 3/26

C08K 3/34

C08K 3/36

D01F 6/06

D04H 3/00

D04H 3/16

**//(C08L 23/10 , C08L 27:12), (C08L
23/10 , C08L 27:16)**

(21) Application number: **09164330**

(71) Applicant: **MITSUI CHEM INC**

(22) Date of filing: **20 . 06 . 97**

(72) Inventor: **CHOKAI MICHIO**

(54) POLYPROPYLENE COMPOSITION

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain the subject composition capable of preventing the defective appearance of molded products, such as surface roughness, irregular thickness and white stains, and useful for metal-deposited films, nonwoven fabrics, etc., by including a specific polypropylene and a specific lubricant in specific amounts, respectively.

SOLUTION: This propylene composition comprises (A) polypropylene obtained by a polymerization method using

a single site catalyst (concretely a metallocene catalyst, a Brookhart catalyst) and having a melt-flow rate of 0.1-100 g/10 min, preferably 0.1-30 g/10 min, and (B) a lubricant containing (B₁) a fluoropolymer (e.g. a lubricant comprising 50-100 wt.% of a fluorinated vinylidene-hexafluoropropylene copolymer, 0-10 wt.% of talc, 0-15 wt.% of calcium carbonate, 0-10 wt.% of silicon dioxide, and 0-10 wt.% of barium sulfate). The component B is contained in an amount of 0.0001-0.1% converted into the amount of the component B₁.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-12400

(43)公開日 平成11年(1999)1月19日

(51)Int.Cl.⁸
C 0 8 L 23/10
C 0 8 K 3/24
3/26
3/34
3/36

識別記号

F I
C 0 8 L 23/10
C 0 8 K 3/24
3/26
3/34
3/36

審査請求 未請求 請求項の数 5 OL (全 5 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平9-164330

(71)出願人 000005387

三井化学株式会社

東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

(22)出願日 平成9年(1997)6月20日

(72)発明者 烏海 道生

千葉県市原市千種海岸3番地 株式会社グ

ランドポリマー内

(74)代理人 弁理士 柳原 成

(54)【発明の名称】 ポリプロピレン組成物

(57)【要約】

【課題】 シングルサイト触媒を用いて重合したポリプロピレンから、表面の肌荒れ、厚みむら、白くぼけるなどの外観不良を防止して、外観良好な押出成形品を得る。

【解決手段】 シングルサイト触媒を用いる重合法で製造されたメルトフローレートが0.1~100g/10分のポリプロピレンと、フッ素系重合体を含む滑剤とを含有する組成物であって、滑剤の含有量がフッ素系重合体として0.0001~0.1重量%であるポリプロピレン組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 シングルサイト触媒を用いる重合法で製造されたメルトフローレートが0.1～100g／10分のポリプロピレンと、フッ素系重合体を含む滑剤とを含有する組成物であって、滑剤の含有量がフッ素系重合体として0.0001～0.1重量%であることを特徴とするポリプロピレン組成物。

【請求項2】 滑剤がフッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体を主成分とし、硫酸バリウム、タルク、炭酸カルシウムおよび酸化ケイ素からなる群から選ばれる少なくとも一種を含んでいる請求項1記載のポリプロピレン組成物。

【請求項3】 金属蒸着フィルム用である請求項1または2記載のポリプロピレン組成物。

【請求項4】 ポリプロピレンのメルトフローレートが0.1～30g／10分である請求項3記載のポリプロピレン組成物。

【請求項5】 不織布用である請求項1または2記載のポリプロピレン組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はシングルサイト触媒を用いて製造されたポリプロピレン組成物、特に金属蒸着フィルム用または不織布用に適したポリプロピレン組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】 メタロセン触媒などのシングルサイト触媒を用いて製造されたポリプロピレンは、チーグラー触媒を用いて製造されたポリプロピレンに比べて、外観良好な成形品を得るのが難しい。例えば、一般的に成形性が良好であるとされているメルトフローレートの大きいポリプロピレンを用いても、フィラメント状に押出成形するとメルトフラクチャーが生じてフィラメントの表面が肌荒れしたり、フィルムやシート状に押出成形すると肌荒れや厚みむらが発生したり、白くぼやけるなどの外観不良を生じやすい。

【0003】 従来、ポリプロピレンに滑剤を配合して成形性を改良し、外観良好な押出成形品を製造することは知られている。しかしフッ素系重合体を含む滑剤が、シングルサイト触媒を用いて重合されたポリプロピレンの外観性を著しく改善することは知られていない。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明の課題は、シングルサイト触媒を用いて重合したポリプロピレンを主成分とするポリプロピレン組成物であって、外観性に優れおり、押出成形しても表面が肌荒れしたり、厚みむらが生じたり、白くぼけるなどの外観不良が生じず、外観良好な押出成形品を得ることができるポリオレフィン組成物を提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明は次のポリプロピレン組成物である。

(1) シングルサイト触媒を用いる重合法で製造されたメルトフローレートが0.1～100g／10分のポリプロピレンと、フッ素系重合体を含む滑剤とを含有する組成物であって、滑剤の含有量がフッ素系重合体として0.0001～0.1重量%であることを特徴とするポリプロピレン組成物。

10 (2) 滑剤がフッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体を主成分とし、硫酸バリウム、タルク、炭酸カルシウムおよび酸化ケイ素からなる群から選ばれる少なくとも一種を含んでいる上記(1)記載のポリプロピレン組成物。

(3) 金属蒸着フィルム用である上記(1)または(2)記載のポリプロピレン組成物。

(4) ポリプロピレンのメルトフローレートが0.1～30g／10分である上記(3)記載のポリプロピレン組成物。

20 (5) 不織布用である上記(1)または(2)記載のポリプロピレン組成物。

【0006】 《シングルサイト触媒を用いる重合法で製造されたポリプロピレン》 シングルサイト触媒は、活性点が均一（シングルサイト）である触媒であり、例えばメタロセン触媒（いわゆるカミンスキ触媒）やブルックハート触媒などがあげられる。例えばメタロセン触媒は、メタロセン系遷移金属化合物と、有機アルミニウム化合物および上記メタロセン系遷移金属化合物と反応してイオン対を形成する化合物からなる群から選ばれる少なくとも一種の化合物とからなる触媒であり、無機物に担持されていてもよい。

【0007】 前記メタロセン系遷移金属化合物としては、例えば特開平5-209014号、特開平6-100579号、特開平1-301704号、特開平3-193796号、特開平5-148284号等に記載された化合物などがあげられる。

【0008】 有機アルミニウム化合物としては、アルキルアルミニウム、または鎖状あるいは環状アルミニオキサン等があげられる。上記鎖状あるいは環状アルミニオキサンは、アルキルアルミニウムと水とを接触させることにより生成される。例えば重合時にアルキルアルミニウムを加えておいて、後で水を添加するか、あるいは錯塩の結晶水または有機、無機化合物の吸着水とアルキルアルミニウムとを反応させることにより得られる。

【0009】 前記メタロセン系遷移金属化合物と反応してイオン対を形成する化合物は、例えば特表平1-501950号、特開平3-207704号等に記載された化合物などがあげられる。

【0010】 シングルサイト触媒を担持させる前記無機物としては、シリカゲル、ゼオライト、珪藻土等があげ

られる。

【0011】シングルサイト触媒を用いてポリプロピレンを製造する場合、プロピレンだけで単独重合してもかまわないが、耐衝撃性や柔軟性を向上させるため、あるいは低密度化のため等の目的でプロピレンと他の α -オレフィンとを共重合することもできる。このような α -オレフィンとしては、例えばエチレン、1-ブテン、3-メチル-1-ペントン、4-メチル-1-ペントン、1-ヘキセン、1-オクテン、1-デセンなどの炭素数2~20、好ましくは2~8の α -オレフィンがあげられる。2種以上の α -オレフィンを共重合する場合、主たるモノマーに対するコモノマーとなる α -オレフィンの量は、0.01~10モル%、好ましくは0.01~5モル%とすることが好ましい。

【0012】重合方法としては、塊状重合、溶液重合、懸濁重合、気相重合等があげられる。これらの重合はバッチ法であっても連続法であっても良い。重合条件は通常、重合温度；-100~+250℃、重合時間；5分~10時間、反応圧力；常圧~300Kg/cm²(ゲージ圧)である。

【0013】本発明で用いるポリプロピレンは、前記シングルサイト触媒で重合されたポリプロピレンであつて、メルトフローレート(230℃、荷重2.16kg)が0.1~100g/10分のポリプロピレンである。後述するように、本発明のポリプロピレン組成物を金属蒸着フィルム用に使用する場合はメルトフローレートが0.1~30g/10分、不織布用に使用する場合はメルトフローレートが30~100g/10分であるポリプロピレンが好ましい。またポリプロピレンとしては、シングルサイト触媒により立体規則性に特徴を出して、通常のアイソタクチック構造のほかにシンジオタクチック構造のポリプロピレンを用いてもよい。

【0014】《滑剤》本発明で用いる滑剤はフッ素系重合体を含む滑剤であり、フッ素系重合体だけからなる滑剤であってもよく、またフッ素系重合体のほかに他の滑剤成分が含まれていてもよい。滑剤中に含まれるフッ素系重合体の含有量は50~100重量%、好ましくは65~100重量%であるのが望ましい。

【0015】滑剤として用いる上記フッ素系重合体としては、 α -オレフィンの水素原子の一部または全部がフッ素原子で置換されたフッ素化 α -オレフィンの単独重合体または共重合体、あるいはフッ素化 α -オレフィンとフッ素化されていない α -オレフィンとの共重合体などが使用できる。上記フッ素化 α -オレフィンの具体的なものとしては、フッ化ビニリデン、ヘキサフルオロプロピレン、テトラフルオロエチレン、クロロトリフルオロエチレンなどがあげられる。

【0016】フッ素系重合体の具体的なものとしては、フッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体、フッ化ビニリデン・クロロトリフルオロエチレン共

重合体、テトラフルオロエチレン・プロピレン共重合体などがあげられる。これらの中では、フッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体が好ましい。

【0017】前記他の滑剤用成分としては、タルク、炭酸カルシウム、酸化ケイ素、硫酸バリウム等の無機化合物などがあげられる。本発明で用いる滑剤としては、フッ素系重合体50~100重量%、タルク0~10重量%、炭酸カルシウム0~15重量%、酸化ケイ素0~10重量%、硫酸バリウム0~10重量%を含む滑剤が好ましい。

【0018】上記無機化合物の他にも公知の他の滑剤を併用してもよく、例えば流動パラフィン、天然パラフィン、マイクロワックス、合成パラフィン、ポリエチレンワックス、塩素化炭化水素、フルオロカルボン等の炭化水素系滑剤；高級脂肪酸、オキシ脂肪酸等の脂肪酸系滑剤；脂肪酸アミド、アルキレンビス脂肪酸アミド等の脂肪酸アミド系滑剤；脂肪酸の低級アルコールエステル、脂肪酸の多価アルコールエステル、脂肪酸の脂肪アルコールエステル、脂肪酸のポリグリコールエステル等のエステル系滑剤；脂肪アルコール、多価アルコール、ポリグリコール、ポリグリセロール等のアルコール系滑剤；金属石鹼などがあげられる。

【0019】《ポリプロピレン組成物》本発明のポリプロピレン組成物は、前記シングルサイト触媒を用いる重合法で製造されたポリプロピレンと、前記フッ素系重合体を含む滑剤とを含有するポリプロピレン組成物である。滑剤の含有量は、ポリプロピレン組成物中の前記フッ素系重合体の含有量として0.0001~0.1重量%、好ましくは0.01~0.08重量%である。

【0020】本発明のポリプロピレン組成物には、前記ポリプロピレン以外の他の熱可塑性樹脂、耐熱安定剤、耐候安定剤、酸化防止剤、帶電防止剤、アンチブロッキング剤、染料、顔料、天然油、合成油などの他の成分が、本発明の目的を損なわない範囲で含有されていてよい。

【0021】本発明のポリプロピレン組成物は、押出成形用のポリプロピレン組成物、特に金属蒸着フィルム用または不織布用のポリプロピレン組成物として好適に使用することができる。本発明のポリプロピレン組成物

40 は、ポリプロピレンと滑剤と必要により添加する他の成分とを、押出機、ニーダーなどを用いて溶融混練する方法などにより製造することができる。また、予め滑剤をポリプロピレン等の他のポリマーに高濃度に混合してマスターバッチ化し、このマスターバッチ化粒子とポリプロピレンとを溶融混練してもよい。

【0022】このようにして得られる本発明のポリプロピレン組成物は、ポリプロピレンがシングルサイト触媒を用いて重合されたポリプロピレンであるにもかかわらず、外観性に優れている。例えば、押出成形用の原料として用いても、表面が肌荒れしたり、厚みむらが生じた

り、白くぼけるなどの外観不良は生じず、外観良好な押出成形品を得ることができる。

【0023】《成形方法》本発明のポリプロピレン組成物を成形するには、公知の方法が採用できるが、公知の押出装置を用いて押出成形するのが好ましい。例えば、単軸スクリュー押出機、混練押出機、ラム押出機、ギヤ押出機などを用いて、溶融したポリプロピレン組成物をダイから押出すことにより押出成形ができる。また押出成形プロセスにおいて、一方向または多方向に延伸することもできる。

【0024】押出成形する成形品の形状は特に限定されず、フィラメント状、フィルム状、シート状、パイプ状、ホース状など、任意の形状に成形することができる。これらの中ではフィラメント状、フィルム状またはシート状に成形するのが好ましい。

【0025】このようにして得られる押出成形品は外観が良好である。例えば、フィラメントは表面の肌荒れなどが生じず、外観良好な製品が得られる。フィルムは表面の肌荒れ、厚みむら、白くぼけるなどの外観不良が生じず、外観良好な製品が得られる。

【0026】本発明のポリプロピレン組成物は、特に金属蒸着フィルム用または不織布用に好適である。金属蒸着フィルム用の場合、本発明のポリプロピレン組成物は平滑で均一なフィルム原反を押出成形できる上、延伸性にも優れ、金属蒸着時にピンホールのない均質な蒸着層をむらなくフィルム上に形成できる。一方、滑剤として最もよく用いられるステアリン酸カルシウム単独の場合には、金属蒸着層にむらが出てピンホールが発生し、均質な蒸着層をむらなくフィルム上に形成することができない。

【0027】不織布用の場合、本発明のポリプロピレン組成物は紡糸ノズル付近からの発煙が抑制されるので、煙が冷却によって凝集し、フィラメントやシートに付着して変色を引き起こす虞もない。一方、滑剤として最もよく用いられるステアリン酸カルシウム単独の場合には、ステアリン酸カルシウムが紡糸ノズルを出たところで蒸散して発煙が生じ易く、このため冷却されて凝集した煙成分がフィラメントに付着して不織布が変色し易い。

【0028】

【発明の効果】本発明のポリプロピレン組成物は、フッ素系重合体を含む滑剤を特定量含有しているので、ポリプロピレンがシングルサイト触媒で重合されたポリプロピレンであるにもかかわらず外観性に優れており、押出成形しても表面が肌荒れしたり、厚みむらが生じたり、白くぼけるなどの外観不良が生じず、外観良好な押出成形品を得ることができる。

【0029】

【発明の実施の形態】

実施例1および比較例1

メタロセン触媒で製造されたメルトフローレート(230°C、荷重2.16kg)1.5g/10min、融点153°C、結晶化温度114°C、Mw/Mn2.5のホモポリプロピレンに、フッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体90重量%、タルク6重量%、炭酸カルシウム2重量%および酸化ケイ素2重量%を含む滑剤(ダイナマーFX-9613、スリーエム社製、商標)を、フッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体の含有量が0.02重量%となるように配合し、ポリプロピレン組成物を調製した。このポリプロピレン組成物を250°Cで押出機によりフィラメント状に押し出し、押出された溶融フィラメントを水槽中に連続的に通して冷却して巻き取った。得られたフィラメントの肌荒れは無く、綺麗な外観であり、かつ肌荒れに基づく冷却水のフィラメントへの同伴も見られなかった(実施例1)。一方、滑剤を配合しない他は実施例1と同様にしてフィラメント成形したものは、メルトフラクチャーが発生してフィラメントの表面が肌荒れし、肌荒れに基づく凹凸に冷却水が同伴してフィラメントの巻き取りができなかった(比較例1)。

【0030】実施例2および比較例2

メタロセン触媒で製造されたメルトフローレート6.3g/10min、融点153°C、結晶化温度112°C、Mw/Mn2.4のホモポリプロピレンを使用する他は実施例1と同様に行った。その結果、滑剤を配合したものはフィラメントの肌荒れは無く、綺麗な外観であり、かつ肌荒れに基づく冷却水のフィラメントへの同伴も見られなかった(実施例2)。一方、滑剤を配合しない他は実施例2と同様にしてフィラメント成形したものは、フィラメントの表面が肌荒れし、肌荒れに基づく凹凸に冷却水が同伴してフィラメントの巻き取りができなかった(比較例2)。

【0031】実施例3(金属蒸着フィルムの製造)

メタロセン触媒で製造されたメルトフローレート1.5g/10min、融点153°C、結晶化温度114°C、Mw/Mn2.5のホモポリプロピレンに、フッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体90重量%、タルク6重量%、炭酸カルシウム2重量%および酸化ケイ素2重量%を含む滑剤(ダイナマーFX-9613、スリーエム社製、商標)を、フッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体の含有量が0.03重量%となるように配合し、ヘンシェルミキサーで混合後造粒し、ポリプロピレン組成物を調製した。このポリプロピレン組成物を用いて押出機でシート状に連続的に押し出し、押出した方向に5倍延伸した後、押出した方向と直角に5倍延伸して二軸延伸フィルムを連続的に成形した。得られたフィルムは表面の肌荒れや厚みむらがなく、しかも透明感の高いものであった。

【0032】上記フィルムの片面にアルミニウムを蒸着して金属蒸着フィルムを製造した。得られた金属蒸着フ

イルムは、アルミニウム層が均一にむらなく蒸着されており、ピンホールもなく良好な金属蒸着フィルムであつた。

【0033】比較例1

滑剤としてステアリン酸カルシウムを0.1重量%となるように配合する他は実施例3と同様にして金属蒸着フィルムを製造した。得られた金属蒸着フィルムは、アルミニウムが蒸着されずにピンホール状にすけて見える部分が発生した。

【0034】実施例4

ダイナマーFX-9613の代りにフッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体9.9重量%、および硫酸バリウム1%を含む滑剤（バイトンフリー・フロー10、イーアイデュポン社製、商標）を使用する以外は実施例3と同様に行った。金属蒸着前の二軸延伸フィルムは表面の肌荒れや厚みむらがなく、しかも透明感の高いものであった。またフィルム片面にアルミニウムを蒸着したフィルムは、アルミニウム層が均一にむらなく蒸着されており、ピンホールもなく良好な金属蒸着フィルムであった。

【0035】実施例5（不織布の製造）

* メタロセン触媒で製造されたメルフローレート(230°C、荷重2.16kg)65g/10分、融点150°C、Mw/Mn=2.5のホモポリプロピレンに、フッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体9.0重量%、タルク6重量%、炭酸カルシウム2重量%および酸化ケイ素2重量%を含む滑剤（ダイナマーFX-9613、スリーエム社製、商標）をフッ化ビニリデン・ヘキサフルオロプロピレン共重合体の含有量が0.02重量%になるように配合し、ヘンシェルミキサーで混合後造粒した。

【0036】このペレット状の樹脂をスパンボンド法不織布製造装置へと供給し、紡糸後エアージェットで吸引し、スクリーンベルト上へと堆積させた。その後、ヒートエンボスロールへと通し、不織布を得た。紡糸時の発煙も見られず、また不織布の変色も観察されなかった。

【0037】比較例2

ダイナマーFX-9613の代りにステアリン酸カルシウムを0.1重量%となるように配合する他は実施例5と同様に行った。不織布製造時に紡糸口金付近で発煙が認められると同時に凝集した煙成分がフィラメントや不織布上に付着し、良好な不織布は得られなかつた。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. 6
 D 0 1 F 6/06
 D 0 4 H 3/00
 3/16
 // (C 0 8 L 23/10
 27:12)
 (C 0 8 L 23/10
 27:16)

識別記号

F I		
D 0 1 F 6/06	Z	
D 0 4 H 3/00	D	
3/16		

*